

CZ
433
033

禁電子式複写

名木欽一郎編纂

現行
坑
汰
彙
纂

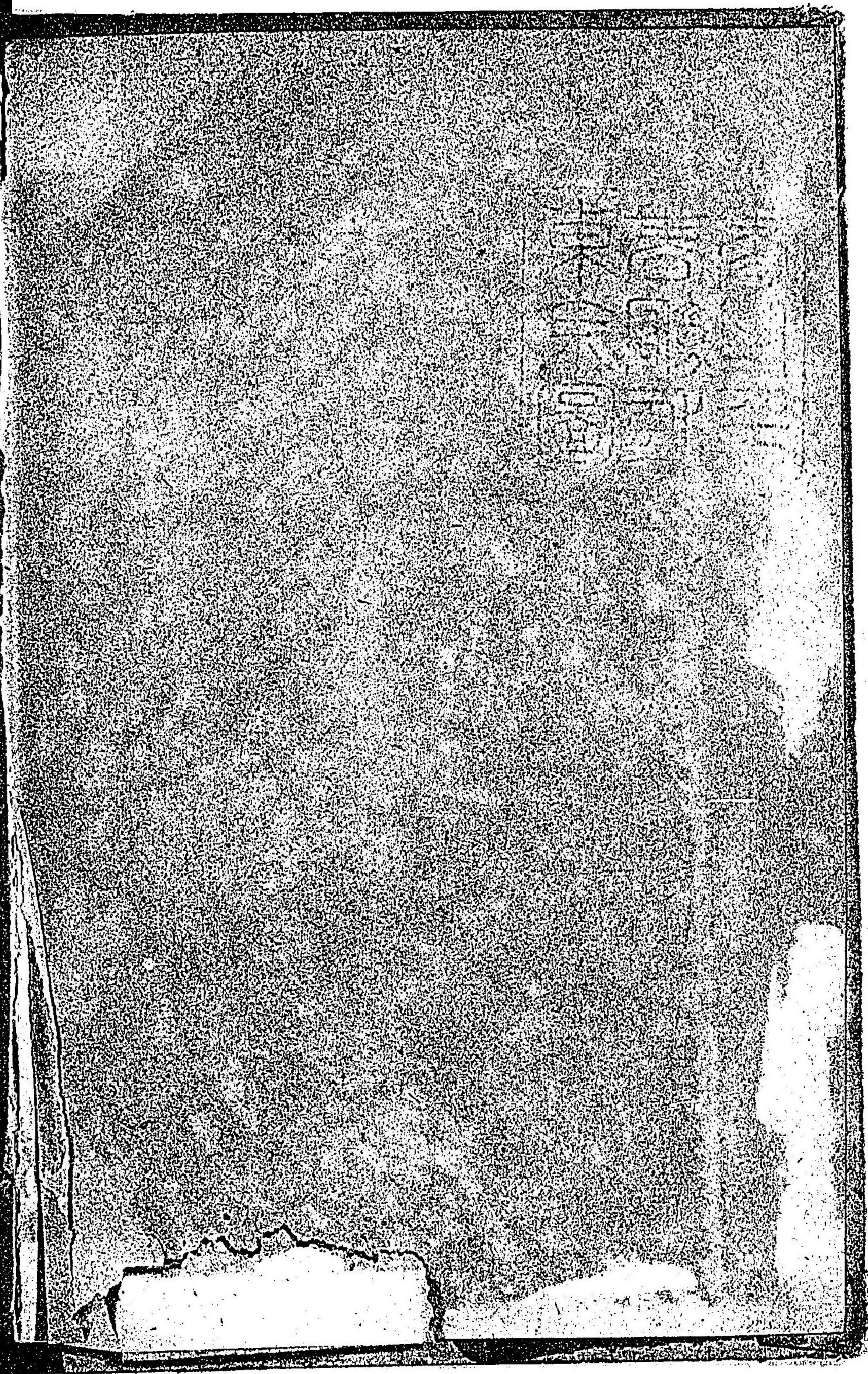
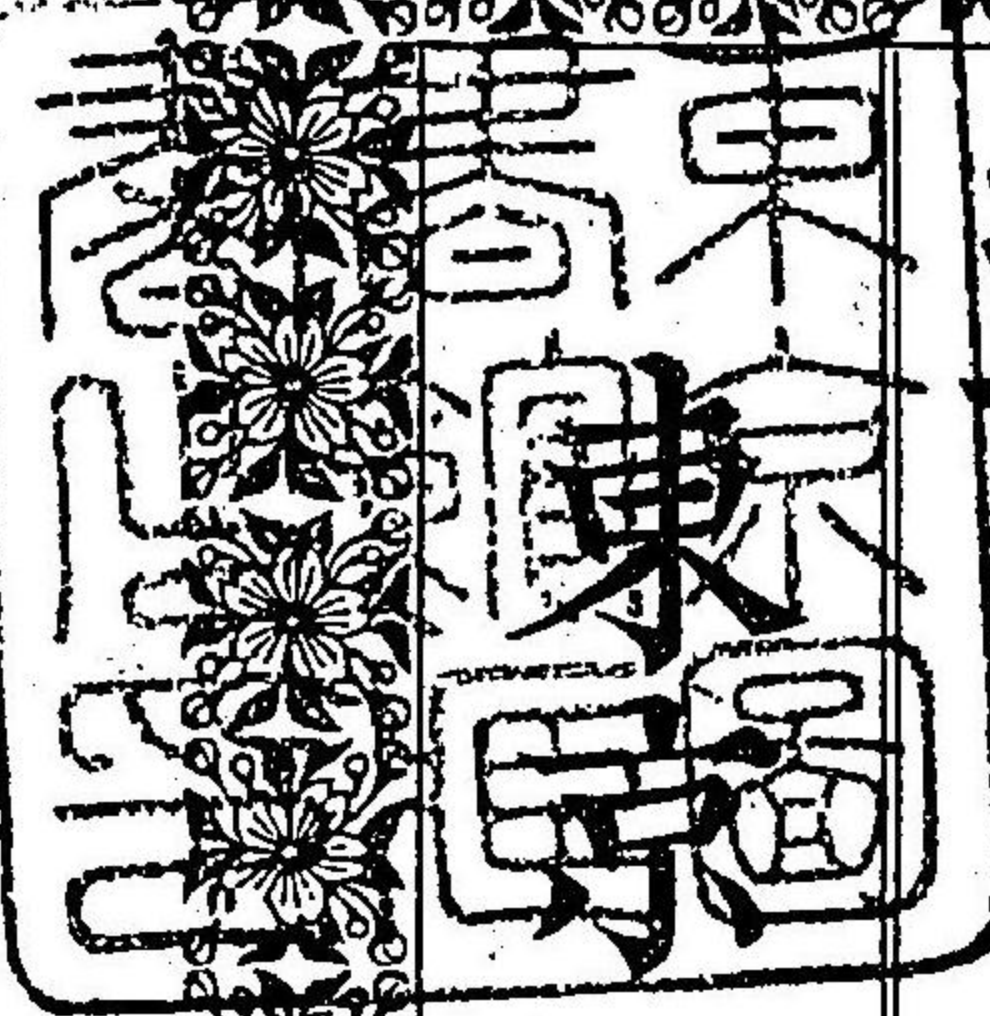
東京
有隣堂發兌

特14
750

名木欽一郎編纂

現行
坑汰彙纂

有隣堂發兌



C 8
433
033

緒言

一此書ハ明治元年ヨリ十二年十月ニ至ル官省布告布達中凡鑛山坑業ニ關スル者ヲ纂輯シ其改正追加廢止等ニ係ル者ハ盡ク之ヲ刪補シ現今行ハル、所ノ成規ヲシテ一目瞭然タラシムルモノナリ

一書中〔布告〕トアルハ太政官ノ公布〔太達〕トアルハ同官ノ達〔工布〕ハ工部省ノ布達〔工達〕ハ同省ノ達〔內布〕ハ內務省ノ布達ヲ云フ

一書中考証ノ爲メ編者ノ註記スルモノハ（ ）ヲ加ヘテ原注ニ區別ス

一文字ノ右傍ニ圈點ヲ施スモノハ一二ノ事項改正廢止或ハ變換等ニ係ルモノナリ

明治十二年十月

編者誌

坑法彙纂目錄

- 第一章 總則 一 丁
- 第二章 礦山請負稼ノ下 十九 丁
- 第三章 礦山稼願ハ本人願書ニ管廳ノ添書ヲ要ス 二十 丁
- 第四章 日本坑法頒布ニ付借區開坑更ニ出願方并日限 二十 丁
- 第五章 試掘借區等ノ願書式并出願代理之節心得 二十二 丁
- 第六章 鑛業稼ノ者外國人雇入手續 二十四 丁
- 第七章 鑛業ニ付外國人雇入ノ節打合ノ手續

○第八章 試堀券狀并ニ借區券狀 二十五丁

○第九章 借區坑業明細表書式 二十七丁

○第十章 試堀中坑業日數工數出鑛ノ量等届出并ニ廢業延期等出願方 三十九丁

○第十一章 試堀及借區開坑ニ付届出并ニ納稅差出方 四十丁

○第十二章 借區稅月割ノ計算并ニ坑物稅當分廢止ニ付納稅ノ區別 四十一丁

○第十三章 舊慣稅及坑區坑物ノ諸稅上納方 四十二丁

○第十四章 借區開坑許可ノ礦場讓渡又ハ廢業分區等ノ節手續 五十丁

○第十五章 試堀鑛場ヨリ坑物發見ノ節届出方 五十一丁

○第十六章 數人分區營業ノ節境界ノ處分方 五十三丁

○第十七章 鑛業稼ノ者身代限ノ節處分方 五十三丁

○第十八章 坑物引當ニ外國人ヨリ金子借入又ハ先キ賣チ禁ス 五十四丁

○第十九章 鑛山等ニ係ル會社設立出願方 五十五丁

○第二十章 北海道坑山ノ管理及借區稅 五十五丁

○第二十一章 坑法ニ屬セザルモノ、種類區別并取扱方 五十六丁

坑法彙纂

名木欽一郎 編輯

○第一章 總則

〔布告第二百五十九號〕六年七月廿日

今般鑛山其他諸坑業ノ規則別冊ノ通改定候ニ付テハ凡坑物ニ關係ノ事件ハ工部省ニ於テ總管セシメ候條自今金屬其他諸坑物營業ノ儀都テ同省へ可申立候此旨布告候事

日本坑法

第一章 坑物

第一 正理ヲ以テ論スルハ凡無機物タル者ハ生活ノ機ナ都テ坑業ノ部分ニ屬ス此無機物品質ニ類ニ分ル即第一類ハ有鑛質第二類ハ

無鐵質タリ凡諸金屬ノ天然木質ヲ以テ出ル者或ハ他ノ物質ト合化

シテ出ル者ハ右第一類ニ屬ス燃質物山攪燐酸石灰美石及玉環ノ類

ハ右第二類ニ屬ス本條舉ル所ノ有鐵質無鐵質トモ總テ是テ坑

物ト稱ス坑山坑業坑區坑產等皆之ニ倣ヘ

第二 前ニ掲記セシ物類凡日本國中ニ於テ發見スル者ハ都テ日本政

府ノ所有ニシテ獨政府ノミ之ヲ採用スル分義アリ

第三 築石土砂粘土其他建築耕作所用ノ諸物品ハ都テ地主タル者ノ

所有トスベシ

第四 日本ノ民籍タル者ニ非ザレバ試堀ヲ作シ坑區ヲ借り坑物ヲ採

製スル事業ノ本主或ハ組合人ト成ルヲ得ズ坑產ノ割合及ビ損益

ハ都テ組 若シコレヲ犯ス者ハ其業ニ屬スル所有物ヲ官ニ没入シテ

其業ヲ禁止スベシ

第二章 試堀

第五 試堀ヲ作サント欲スル者ハ鑛山寮ニ願出許可ヲ得テ之ヲ行フ

ベシ試堀ヲ行フ爲ニ必要ノ地面他人ニ屬セバ其償金ヲ對談處分ス

ベシ地主ニシテ自ラ試堀ヲ企ル者ハ衆ニ超テ許可ヲ得ベキ分義ア

リトス然レモ自ラ試堀ノ資本無クシテ他人ノ舉ヲ拒ミ或ハ不當ノ

償金ヲ貪ラバ鑛山寮或ハ地方官ニテ正價ヲ裁決シテ其地ヲ買上グ

ベシ

第六 試堀ニテ坑物發見スルキハ直ニ見本ヲ添テ鑛山寮ニ届出ツベ

シ且試堀中ハ一月七月間度毎ニ前六個月間ノ行業日數及工數並產

鑛量ヲ開報ス可シ

凡產鑛ハ借區券ヲ第十款出ツ得ル後ニ非ザレハ恣ニ賣却スルヲ得ズ若

シ之ニ背カバ其全價ヲ沒収ス可シ

第七 試堀ハ都テ一年間ヲ以テ期限トス若シ延期ヲ願出ルニ實ニ未

開坑ヲ決スルヲ得ザル事理判然タラバ之ヲ許可スルヲ有ル可シ

第八 試堀人廢業スルキハ第二十七款廢坑則ノ如クスベシ

此時ニ産鑛ハ鑛山寮ノ許可ヲ得テ賣却シ第三十一款ノ坑物税ヲ納ム可シ

試堀人損失ニ因テ廢業スル事實判然タルニ於テハ坑物税ヲ免ヌルヲ有ルベシ

第三章 借區開坑

第九 開坑スル者ハ先ツ坑區ヲ得ベシ坑區ノ廣狹ハ其適實ナル起業ノ目途ニ應ジテ之ヲ得セシム可シ

有鑛質坑ヲ開ク者ハ必ズ製鑛ノ業ヲ兼ヌ可シ

凡借區開坑ハ鑛山寮ニ願出可シ此願書ニ其得ント欲スル坑區ノ測量圖ヲ添テ出ス可シ

試堀ヲ經テ借區願出ル者ハ其坑區中別ニ地主アリト雖モ之ヲ拒ムヲ得ズ尤其處分ハ借區券ヲ得ルノ後二十二款ノ如クナル可シ

第十 願出ノ借區ハ鑛山寮官員之ヲ驗測シ標石ヲ植テ境界ヲ識別スベシ巡回官員歸報之後許可スベキハ工部全權ノ証印ヲ以テ借區券ヲ附與ス可シ

第十一 凡借區ハ通常十五年間ヲ以テ定期トス之ヲ終ルニ至テ繼年期ハ新ニ願出スベシ

第四章 通洞

第十二 通洞ハ坑道ハ縱横ニ小坑ヲ穿ツヲ通常トス別ニ探鑛疏水運通洞ト我カ借區中ニ非ズト雖モ之ヲ企ルヲ得ベシ此時ハ願書ニ目論見明細圖ヲ添テ鑛山寮へ出ス可シ若其通洞他人ノ借區ニ亘涉スベキハ豫メ其借區人ニモ報知ス可シ

通洞ハ高九尺幅六尺ヨリ減ズベカラズ是ヨリ小ナルハ通洞トセズ
 第十三 願出ノ通洞ハ鑛山寮。官員實地勘踏歸報ノ後許可スベキハ工
 部全權ノ証印ヲ以テ免狀ヲ附與スベシ免狀ヲ得ルノ後若シ目論見
 圖ニ違ヒ方向ヲ轉シ或ハ距離ヲ延縮セント欲セハ鑛山寮へ願出許
 可ヲ得テ之ヲ行フ可シ

第十四 借區人何レモ自ラ通洞ヲ開クベキ資本有ニ非ザレハ我區中
 タリト雖モ他人ノ舉ヲ拒ム可カラズ

通洞保全ノ爲メニ其周圍ノ土石ヲ外ヨリ厚サ一間半ヲ以內ニ堀入
 ルベカラズ然レモ其跡ニ自己ノ入費ヲ以テ支柱ヲ構造シ崩潰ノ患
 無カラシムル者ハ此限ニ非ズ 是ハ坑物ヲ得ンガ爲ニ一旦
 土石ヲ堀出ス時ノ如キ是也

第十五 通洞ニ因テ諸借區人便利ヲ得ルアテハ通洞發起人ニ其謝
 金ヲ出スベシ若シ之ニ就テ對談穩當ナラズハ鑛山寮ヨリ處斷ス可
 シ

通洞ヲ開ク者ハ借區人未定之所ニ於テハ通洞ノ周圍內ヨリ出ルダ
 ケノ礫石ヲ取ルヲ得ベシ他人ノ借區中ニ於テハ此礫石ノ一半ヲ
 借區人ニ歸スベシ

第五章 坑業

第十六 都テ坑業ニ付テハ坑物ヲ坑中支柱ノ爲ニ存ス可キ所ノ外ハ
 成ル丈坑利ヲ遺スヲナク取出スベシ此法ヲ犯シ其他都テ坑ノ利用
 ヲ害スルモノハ其輕重ニ從テ罰金ヲ徵ス可シ

第十七 試堀開坑或ハ通洞等ヲ企ルニハ舍屋鑛道河流及ビ道路ノ如
 キ其害ヲ受クベキ場所ハ度ヲ計テ之ヲ避ケ殊ニ城堡ハ七十間以內
 ノ地ヲ避ク可シ

凡場所ノ主タル者應諾スルニ非ズシテ此ヲ犯ス者アレハ城堡ハ其

律ニ任シ餘ハ其損害ヲ償復スル一倍ノ費額ヲ取テ本費ハ其主ニ附與ス可シ

第十八 凡初發許可ヲ得シ坑物ノ外ニ別種ノ坑物ヲ見出ス者ハ速ニ鑛山寮ニ報知スベシ之ヲ背ク者ハ其坑物又ハ代價ヲ取揚グ可シ如此類ノ借區稅ハ第三十一條ニ照準シ高價ナル方ノ例ヲ以テ納ムベシ

第十九 開坑人ハ歲々一月七月兩度毎ニ前六個月間ニ産出セシ坑物量其賣出高並代價及ビ行業日數工數ヲ具記シ鑛山寮ニ報知スベシ一有鑛質ハ坑産量並製出量且製出セシ混淆物二種以上ノ金属ヲ含有スルハ其試檢ノ割合ヲモ具記シテ賣出高以下都テ前ノ如クス可シ右數量不正或ハ開報違期ノ罰ハ金五十圓トス若シ賣出高並代價ヲ減書スル者ハ其減書セシ高ノ三倍ヲ徵收ス可シ

第二十 通例開坑又ハ廢礦ヲ採製スルニモ一年間ノ專業ハ地面五百坪ノ下ニ就テ壯健ナル一夫三百日ヲ以テ成セル程ノ工數ヨリ減スベカラズ若シ之ニ背ク者實ニ百方免シ難ク妨碍判然タルニ有ラズンハ其業ヲ禁止ス可シ

第二十一 坑業人ハ互ニ隣坑ノ風通シヲ便利ニスベシ且甲區ヨリ乙區ノ地中ニ水道ヲ通シ地上ニ要路ヲ通センコトヲ求ルニ於テハ不當ノ償金ヲ貪ルベカラズ若相對ヲ以テ決セズンハ鑛山寮ヨリ處斷ス可シ

右堀通シニ付テ出ル礫石ハ其所ノ借區人ニ屬スベシ
第二十二 凡借區人ハ區上ニ於テ藏庫詰所作事場洗礦所鑛所通路等其他坑業ニ必要ナル地面ハ地主タル者ニ豫メ償金ヲ辨スベシ若シ異論決セズンハ鑛山寮或ハ地方官ニテ正價ヲ裁決シ其地ヲ買取

明治七年二月七日工部省達第一號
太政官第九號
御布告日本
坑法中試掘
並借區開坑
其他願伺等
鑛山寮へ可
差出ト有之
候處自今當
省へ差出可
申尤坑法第
三十一條借
區及坑物稅
之儀ハ該府
縣廳ニ於テ
取鑛山寮
へ上納可致
此旨相達候

ル可シ

第二十三 總テ坑區ヨリ隣區ニ患害損傷ヲ被ラシムルトキハ之ヲ償
フベシ若シ償金決セズンハ鑛山寮ヨリ裁決ス可シ

第二十四 凡借區人其坑業ヲ年限中他人ニ讓渡ス如キハ前以テ雙方
ヨリ鑛山寮ニ願出許可ヲ請フベシ若シ之ニ背ク者ハ其業ヲ禁止ス
可シ

第二十五 凡借區年限終リ又ハ法ニ背ヒテ其業ヲ禁止セラレ或ハ自
ラ廢業スルニ至ル者アレハ都テ其借區ハ政府ニ還復シ其事業ニ就
テ如何ナル負債アリト雖モ總テ其坑山ニハ關係セザル者トス此時
ニ當テ地中ノ結構ハ坑山ニ屬シテ政府ノ有タルベシ

地上ノ營造ハ其主ノ取去ルニ任スト雖モ其跡ノ地面ハ完全ニ修復
ヲナスベシ

第二十六 坑業人ハ其坑山地方ノ住民同様トス因テ其地方官ノ諸法
令ヲ遵守ス可シ

第六章 廢業

第二十七 坑業ヲ廢セント欲スル者ハ堅坑ノ口ヲ掩ヒ又柵圍ヒスベ
シ鑛山寮ヨリ其堅坑ヲ當然ニ堅固ニセシヤ且坑内ノ營繕完全存在
スルヤヲ檢査スベシ若シ疎漏アラハ鑛山寮ニ於テ是ヲ繕治スベキ
費額ノ一倍ヲ徴収ス可シ

第二十八 鑛山寮ヨリ疏水ヲ命スルニ背キテ其事ヲ行ハズ之ガ爲ニ
坑中廢没スルニ至ル者ハ其業ヲ禁止ス

第七章 製鑛所建築

第二十九 凡開坑人坑山外ノ場所ニテ有鑛質物ヲ製出セン爲ニ建築
スベキモノアラハ先ツ鑛山寮ニ許可ヲ請フ可シ

事九年十月工部省達第三號
達チ以テ鑛
山借區明細
表並坑區稅
及試掘日數
等ノ開報自
今本省へ差
出スヘキ旨
ヲ達セラレ

第三十 已ニ製煉セシ鑛物ヲ精製 荒銅ヲ丁銅棹銅ニ作リ山吹スル職
業ノ者ハ起業ヲ鑛山寮ニ報知シ六個月毎ニ元鑛量並製出品量等ヲ
具記シ鑛山寮ニ開報スベシ

第八章 稅納

(八年一月十三日第二號布告○明治六年七月
第二百五十九號布告日本坑法第八章中ニ揭
載有之候坑物稅収納ノ儀本年一月ヨ
リ當分ノ内相廢候條此旨布告候事)

第三十一 鐵ヲ除クノ外有鑛質物ヲ採取スル坑區ハ面積五百坪毎ニ
一个年金壹圓ツ、借區稅トシテ毎年一月ニ前一年分ヲ鑛山寮ニ納
ムベシ 借區稅ハ地租
ムベシニ係セズ
品ヲ採取スル坑區ハ面積五百坪ニ付前條ノ半高ヲ納ムベシ即金五十
錢トス
廢坑ヲ採取スル坑區ハ面積千坪ニ付常例ノ稅額ヲ納ム可シ
開坑區面積五百坪廢礦區面積千坪トニ足ザルモノハ總テ右面積ノ比例

ニ隨テ納ムベシ借區初年ノ區稅ハ月割ニテ納ムベシ
前書借區稅ノ外ニ採製セシ金屬及諸坑物ニ就テ代價百分ノ三ヨリ
百分ノ二十迄ヲ坑物稅トシテ每歲一月七月兩度ニ鑛山寮ニ納ム可
シ

但稅額ノ儀ハ其坑業ノ盛衰ニ從ヒ鑛山寮ヨリ命ズベシ

第三十二 試堀開坑或ハ通洞等ニ付テ前後諸條款ニ記セル稅或ハ罰
金償金等ヲ納メザルハ其業ニ屬スル所ノ運移スベキモノ殘ラズ鑛
山寮ヨリ入札拂ニシテ代價ノ中ヨリ不納高ヲ引去リ其殘金ハ之ヲ
本人ニ還付スベシ

第三十三 凡坑法ノ意旨ニ戾ル過失アル者ハ輕重ニ從テ罰金ヲ命ス
ベシ若シ事業疎略ニシテ人命ヲ失ハハ國律ヲ以テ論處スベシ

右章款ニ記載セル方法ハ明治六年九月一日ヨリ施行スベシ從前ノ法

則及ビ舊習等若シ此法ニ矛盾スル者ハ都テ廢停タルベシ

坑法附示

坑業及製鑛ノ業ヲ舉行スル者西洋ノ學術及工作ヲ用ヒンガ爲メ一定ノ給料ヲ以テ外國技術家ヲ雇入ル、ガ如キハ我坑産損益及ビ所有物ニ干係スル事无キニ因テ坑法第四款ノ禁ニ觸レズ然レモ之ヲ雇入ル、以前其職業給料及年限ヲ分明ニ記載シ其案紙ヲ鑛山寮へ送呈シテ
結約ノ許可ヲ可請候事

書類式様(以下ノ書式ハ本卷第五章及ヒ第八章ヲ參看スヘシ)

表面ニ

試堀願

某縣貫籍某國某郡某村某職業
某

試堀願

私儀某縣管下某國某地ニ於テ何礦ヲ掘得ヘク覺候故先試堀仕度候
間御聞届被下度奉願候以上

某縣貫籍某國某郡某村某職業

某 印

年號月日

前書願出之趣御聞届相成度候也

某縣令某印

年號月日

試堀人ニ與フル証

某縣某地某位置誰地ニ於テ某貫籍某職業某何礦試堀願ノ通聞届候
尤日本坑法ニ違反致間敷者也

鑛山寮印

年號月日

表面ニ

借區開坑願

某縣貫籍某國某郡某村某職業
某

借區開坑願

私儀某年月某地ニ於テ試堀相願候處何礦發見イヌシ又後來何礦ヲ
込ニ候ニ付別紙圖面ノ場所ニ於テ借區開坑被差許度此段奉願候以
上

某縣貫籍某國某郡某村某職業

某 印

年號月日

前書願出之通御聞届相成度候也

年号月日

某縣令某印

借區券

某年月某地幾方面某貫籍某職業某々境界云々ノ場所ニ於テ別紙圖
面之通十五个年間借區開坑差許候尤日本坑法ヲ確奉可致者也
年號月日 工部全權某印

表面ニ

通洞願

某縣貫籍某國某郡某村某職業
某

通洞願

私儀ハ疏水運輸或爲通洞堀通シ度右通洞別紙圖面ノ某場所ニ有之候尤
通洞ノ地位ニ當リ候借區ノ主某ニ報知仕置候右通洞堀方御聞届被
下度奉願候以上

某縣貫籍某國某郡某村某職業

某 印

年號月日

前書之通御聞届相成度候也

年號月日

某縣令某印

通洞券

某年月願出候某貫籍某職業某々地ニ於テ別紙圖面ノ通々洞堀通候
事差許候尤日本坑法ヲ確奉可致者也

年號月日

工部全權某印

○第二章 鑛山請負稼ノ下

工達無號 五年壬申四
月十二日

諸鑛山請負稼之儀ハ是迄民藏工三省之内へ伺出許可之上開業致シ居
問堀等モ同様許可ヲ得テ取掛可申處中ニハ其管轄應限リ聞届年限ヲ
モ不定開業爲致産鑛有之分ハ勝手ニ賣却山稅等モ不納向モ有之哉ニ
相聞以之外之事ニ候右様之山ニ官坑相關或ハ受負願出者有之稼方申
付候場ニ至リ始テ是迄稼主之者有之段申出苦情申立候テモ決而取上
ケ不相成併鑛脈ニモ堀當リ不申歟又ハ小民日用之爲メ自身稼等致候
向ハ其節取調之上相當之處置可致積リ尤此程鑛山稼方ニ付心得方之
儀御布告ニモ相成候間此上右様不取締之儀無之様其管轄地方官ニテ
處置可致候此段兼而相達置候也

○第三章 鑛山稼願ハ本人願書へ管廳ノ添書ヲ要ス

工達無號 五年壬申六月十二日

鑛山稼願之儀ニ付差出候書面ノ内稼人ノ願書無之府縣廳而已之書取
ヲ以及進達候向モ有之不都合候間以來總テ諸願ハ當人之願書へ其廳
添書ヲ以可差出候此段相達候也

○第四章 日本坑法頒布ニ付借區開坑更ニ出願方并日限

工布第十二號 六年九月廿二日

六年十月第十五號ヲ以テ借區開坑之上試堀並ノ三字ヲ脱スル旨正誤
此度日本坑法御布令相成候ニ付テハ從前民部大藏工部三省中ノ許可
ヲ請ケ候者ト雖尼右坑法ニ照準シ試堀并借區開坑之儀來ル十二月二
十五日限り更ニ可伺出候右期限ヲ過候者ハ總テ廢坑ト見做シ處置可
致候尤當時請負稼試堀共伺中ノ分ハ一應書類其儘下渡シ候條更ニ規

則通り改テ可願出候此旨布達候事

工布第十八號 六年十二月廿四日

本年九月中當省第十二號ヲ以テ及布達置候諸鑛山從前稼來ノ者試堀
并借區開坑出願期限之儀當十二月廿五日迄ニ候處地理ニ因テハ坑區
取調等手續相懸リ期限相後ノ候向モ可有之ニ付來明治七年三月三十
一日迄延期差許候條無遲々取調可願出若シ右日限相過候者有之ニ於
テハ斷然廢坑ト見做シ處置可致候此旨更ニ布達候事

工布第九號 七年三月三十日

昨明治六年當省第十八號ヲ以及布達候處從前稼來候諸鑛山試堀並借
區開坑出願期限之儀詮議之次第有之尙來ル六月三十日迄延期差許候
條無遲々可願出尤右期限相過候分ハ從前相達候通處置可致此旨更ニ
布達候事

○第五章 試掘借區等ノ願書式并出願代理之節心得(本章ハ日本坑法末項ヲ參看スヘシ)

正布第十八號 九年十月十九日

諸鑛山試掘借區等之願書雖形日本坑法中掲載有之候得共地名其他ノ認方疎漏ヨリ問々推問ノ手數ヲ費シ不都合不少ニ付今般更ニ願書雖形別紙之通改正候條圖面相添正副貳通可差出此旨布達候事

但代理ヲ以願出候向ハ必ス委任狀相添可差出候事

試掘并借區願書雖形料紙美濃紙ニツ折正副ニ通

試掘借區開坑願

何府何國何郡何村何町住

華士族平民

一何縣何國何郡何村何山

何 某

字 何

但同盟人アラハ何名ト認ムヘシ

但官地

字 何

但官地

但借區ハ字一ヶ所毎ニ坪數ヲ記載シ數ヶ所アラハ其合計ヲモ掲クヘシ

何 礦

右之場所ニ於テ何礦含有致シ候見込ニ付試掘借區開坑致シ度地元へ及示談候處差支無之所有地ニ候へハ地元以候間御許可相成候様仕度圖面相添此段奉願候也

年號月日

願人 何 某 印

前書出願之場所取調候處同村同字中稼人無之或ハ稼人連名連署スヘシ有之候へ共何々ニテ差支無之ニ付御聞届相

成度候也

二十四

區長 何 某 印

何府長官何某殿

前書願出之通御聞届相成度候也

年號月日

何府長官何某印

工部卿何某殿

○第六章 鑛業稼ノ者外國人雇入手續(日本坑法末項ヲ參看スヘシ)

〔工達第二號〕六年七月

諸鑛稼方ニ付外國技術方雇入之儀ハ重大之事件ニ候然處條約之疎漏ヨリシテ往々後害ヲ生シ候儀不少因テ受負稼之者共爾後外國人雇入候節ハ其管轄廳ニ於テ事實檢査之上本人願書ニ條約草案原文譯文

トモ相副管轄廳ヨリ外務工部兩省長官連名宛ニテ當省ヘ差出候ハ、取調候上外務省ヘ打合兩省免許書一同可相渡候猶雇入免許ヲ受雙方調印之節外國人ヨリ坑産並動産不動産ニ關係不致技術而已專任ト致候儀證書差出サセ候條前以其雇入ヘキ外國人ヘ示談致シ置願書差出可申候此段爲心得兼テ相達候也

但免許ノ上ハ條約書原文寫譯文トモ兩省ヘ可差出候事

○第七章 鑛業ニ付外國人雇入ノ節打合ノ手續

〔工達第五號〕六年八月二日

諸鑛業ニ付外國技術方雇入願出候者間々不案内ヨリ鑛山學科ニ通セサル者雇入候向モ有之共事業ノ損益ニ係リ候而已ナラス終ニ鑛業之妨害ト相成候事ニ候其他外國人雇入之儀ハ辛未六月御布令之趣モ有

二十五

之候處右雇入既ニ約定書へ調印之後願出候向モ有之心得違之事ニ候
 依之爾後外國技術方雇入候者ハ先當省鑛山寮へ打合之上右ノ者履歷
 明細書相副願出候ハ、更ニ鑛山寮ニ於テ其者ノ學術並免狀ノ検査ヲ
 遂ケ其任ニ當リ候者ハ雇入可差許ニ付條約草案差出可申當省許可無
 之以前ハ假令假條約タリトモ取結ヒ申問取候且鑛山開業候テ其實本
 資金無之密ニ外國人等へ借金ノ引當ニ相稼候者モ有之由是亦壬申三
 月御布令モ有之以ノ外之事ニ付本資金無之者ハ稼方不差許候條稼人
 身元本資精細取調戸長奥印之上其管轄廳添書ヲ以可願出候其外受負
 稼人其實鑛業ヲ他人へ讓渡内々收稅致候者モ有之由相聞不屈之至候
 間嚴重取糾不取締無之様可致注意此旨相違候事
 但本文心得違之者有之ニ於テハ兼テ稼方差許置候者ト雖凡右鑛山
 引上可申候間其旨兼テ相心得候様可申達候事

○第八章 試堀券狀并ニ借區券狀(日本坑法末項ヲ參看スヘシ)

〔工布第三拾三號〕七年十二月十四日

試堀並借區開坑許可ノ坑業人ニ可下渡假證券書式自今左之通改正致
 候尤是迄追々下渡假候分ハ書替ニ不及候得共若シ試堀並借區ヲ不可
 得者ノ手ニ渡リ候節ハ其日ヨリ可爲廢物儀左ノ書式同様可相心得此
 旨布達候事

試堀券狀書式

右場所ニ於テ一箇年以内試堀差許候尤此證券坑法ニ相記シタル試
 堀ヲ不可得者ノ手ニ渡リ候節ハ其日ヨリ可爲廢物者也
 年號月日
 工部卿何某

借區券狀書式

前書之通常分借區開坑差許候追而實地點檢之上相當之坪數稅額共

相定本證券ト引替可相渡尤此證券坑法ニ相記シタル借區ヲ不可得者ノ手ニ渡リ候節ハ其日ヨリ可爲廢物者也

年號月日

工部卿何某

○第九章 借區坑業明細表書式

工達第拾七號 六年十二月廿四日

今般借區坑業明細表確定ニ付別紙雛形書式之通坑業人ヨリ工程取調差出サセ可申候就テハ右表式共鐵山寮[○]及同寮[○]各出張所^{陸中國鹿角}小阪^{羽後國秋田郡大葛佐渡國雜太郡相川但馬國朝來郡生}ニ相備置候間最寄稼人共野出雲國意宇郡出雲鄉村筑後國三池郡三池ニ相備置候間最寄稼人共願出候ハ、相當之代價ヲ以拂下可申候尤各府縣廳ニ於テ便宜ニヨリ翻刻之上管下稼人へ相當之代價ヲ以拂下候儀可爲勝手此旨相達候事

別紙

借區坑業明細表書式凡例 (以下原文傍訓アリト雖凡今之ヲ略ス)

借區人借區年限中ハ毎年一月と七月の兩度に前六ヶ月の間の坑業を借區坑業明細表に詳記して鑛山寮[○]に開報すべし因て借區人のためニ其書式凡例を左に掲示す

借區坑業明細表書式凡例

借區 どの坑物を堀出すべき場區を政府より借受ることを云ふ此

場區を坑區と云ふ

坑業 どの坑物を採製するために行ふところの事業を云ふ

開業 どの坑物を堀採る事業を始むることを云ふ

明細表 を二様ニ別つ第一號の製煉の業を兼ねたるものゝ表とし

第二號の製煉を兼ねざるものゝ表とす

但凡る製煉をなすべきものハ有鑛質物とす然れども無鑛質物と

雖とも石油山鹽の類の如き製煉の業を兼ねる者の皆第一號の表を用ゆべし

府	何府又は何縣	國	何國何郡	村	何村	字	何
縣		郡					々々

但字ニヶ所以上の何ヶ所にてても割書に記すべし

坑名 何坑 金坑銀坑又ハ石岩坑の類

借區	何千何百坪	開業	明治何年何月	借區	何府縣管下何國郡村	又ハ	何府縣士族
坪數				人	何職苗字名		苗字名

年	明治何年	月	一月ヨリ三月迄	二ヶ月分精算	月	四月ヨリ六月迄	二ヶ月分精算
號	何	數			數		

府縣國郡以下の野内都て上の例に照準して記載すべし

但一 一月より六月迄の表にハ月數上段を一月より三月迄の分とし月數下段を四月より六月迄の分とす○七月より十二月迄の表

にハ上段を七月より九月迄の分下段を十月より十二月迄の分と
そ尤借區の初年末年の如き行業三ヶ月に満たざるものハ其月數
だけを記載すべし○且此横線野圍ハ表面越 高 堀出高
其外各種の勘定高を右三ヶ月づゝに精算して記載すべし

合計 此横線野圍には表面 堀出高 其外各種の野内に記せし月

數上段下段の勘定を三ヶ月づゝに合算して記載すべし

但し越高殘高ハ合計に及ばず

坑品 とい有鑛質物無鑛質物を論せず總て坑中より堀出す所の物
品を云ふ

製品 とい坑中より堀出したる物品を製煉して金銀其他の金属又
ハ製成の石油山鹽等となりたる者を云ふ

越高 とい前月殘高の本月に越一來るものを云ふ

工 數 どの坑品掘出と製煉との爲めに使用したる人夫の總工數を云ふ

入 費 どの坑品掘出と製煉との爲めに消費の總金高を云ふ

但し第二號表面製煉を兼ねざる坑物の賣高代價以下宜しく上の例に準じて知るへし

坑 區 税 どの坑區面積の坪數廣狹に隨ひて納むる税金を云ふ

坑 物 税 どの製出したる坑品又の製煉に及ばざる坑物の賣販代價多寡に隨ひて納むる税金を云ふ

第一號

號年	名坑	縣府
數月	坪借區數	郡國
數月	年開業月	村
合計	人借區	字

借

譯 品	品製	譯 品	品製	品坑	品坑	品坑	品坑
	出 來 高		越 高	殘 高	製 煉 高	掘 出 高	越 高

號年	名坑	縣府
數月	坪借區	郡國
數月	年開業	村
合計	人借區	字

坑物稅	坑區稅	內		入費	內		工數	內	
		製煉入費	堀出入費		製煉工數	堀出工數		製煉行業日數	堀出行業日數

區坑業明細表

行業日數	品			製品殘高	內			代價	品			賣高

借區坑業明細表

越	堀	賣	代	殘	行	工	入	坑	坑
高	出	高	價	高	業	數	費	區	物
	高				日			稅	稅
					數				

○第十章

試堀中坑業日數工數出鑛ノ量等届出并ニ廢業延期等出願方(本卷第九章第十一節并ニ日本坑法第六章ヲ參看スヘシ)

〔工布第二號〕八年二月十日

諸坑山試堀中ハ坑業日數工數並出鑛量等坑法第六章ニ照準可届出且試堀滿期ニ至リ候者ハ借區或ハ廢業延期等可願出之處間ニハ遲延ノ向有之不都合候條各地方官ニ於テ篤ト調査ヲ遂都テ坑法ニ違背無之候様注意可致此旨布達候事

但本文借區或ハ廢業延期等出願之節ハ證券相添可差出候事

〔工達第四號〕九年十月十七日

諸鑛山試堀並借區開坑等廢業願ノ義是迄當省へ差出ノ上許可致來候處自今縣官ニ於テ日本坑法第六章第廿七款ノ通廢坑跡危害無之候様手當方行届候見込ノ分ハ直ニ聞届其段證券相添可届出此旨相達候事

〔工達第五號〕九年十二月廿日

本年第四號ヲ以相達置候諸鑛山試堀並借區開坑等廢業届方ノ儀人民出願ノ月日記載不致向問々有之不都合ニ付以來右月日記載可届出此旨相達候事

○第十一章 試堀及借區開坑ニ付届出并ニ納稅差出方（本卷第九

章第十章ヲ參看スヘシ

〔工布第拾壹號〕八年三月十九日

諸鑛場坑業人毎年一月七月ノ兩度ニ試堀ハ前六ヶ月間之行業日數及産鑛量ヲ致開報借區開坑ハ明細表ヲ差出シ稅納可致ノ處昨明治七年七月並本年一月可差出分今以テ遷延不差出者モ有之右ハ坑法違期ノ罰則ニ照シ夫々處置可致儀ニ候得共坑法御發令後初年ノ儀ニテ取調

筋不熟ノ者モ可有之哉ニ付同年七月並ニ本年一月可差出分共來ル七月三十一日迄ニ無遷延可差出候此旨布達候事

〔工達第三號〕九年十月十四日

諸鑛山借區明細表並坑區稅及試堀行業日數等ノ開報是迄鑛山寮へ差出來候處自今總テ本省へ差出可申此段相達候事

○第十二章 借區稅月割ノ計算并ニ坑物稅當分廢止ニ付納稅ノ區別

〔工布第十號〕八年三月十九日

諸鑛場借區稅初年ノ儀ハ月割ヲ以テ可納旨坑法第八章第三十一款ニ有之候處中ニハ初月ノ立方區々ニ相成不都合ニ候條右ハ券面記載ノ月ヲ以テ初月ト可相心得且本年一月ヨリ坑物稅當分廢止セシレ候得

共（注ヲ參看スベシ）坑法第八章ノ割昨七年十二月迄ニ借區許可ヲ受ケ堀出ノ坑物同年中未タ賣販不致分ハ都テ前年ノ越高ニ候間追テ賣販候上賣高及代價ヲ明細表罫中へ譯書致シ其代價百分之五鑛山寮へ上納可致此旨布達候事

但從前請負稼之者未タ借區許可ヲ得サル向モ昨七年十二月迄ハ舊慣稅ヲ以テ來ル五月三十一日限リ上納可致候事

○第十三章 舊慣稅及坑區坑物ノ諸稅上納方（前章ヲ參看スヘシ）

〔工達第三號〕七年十二月七日

先般日本坑法公布相成各管下諸鑛山借區人坑物稅本年一月ヨリ六月迄ノ分七月中收納可致定期ニ候處今以不相納向モ有之收稅取調方等差支不都合ノ至候條速ニ取調借區明細表トモ至急差出可申此旨相達候事

但舊貫稅上納遲滯ノ分モ本文同様早々可爲致上納事

〔工達第一號〕九年八月十九日

諸鑛山從前受負稼ノ舊慣稅及坑區坑物兩稅明治六年九月ヨリ八年十二月迄追々上納候處未タ取調中ニテ皆納不相成向モ有之年分ノ稅額計算差支候條右三稅共未納ノ分ハ早々上納ノ上別紙雛形書式ニ照準皆納帳可差出若シ未タ調中ニテ一時皆納難相成分ハ各歲皆納下組ヲ製シ未納高ト其事由ヲ内譯ニ詳記シ來ル十月十日限リ可差出此旨相達候事

追テ坑區稅ノ義ハ毎年一月ニ前一ケ年分上納ノ定メニ付以來共無延滯皆納帳正副二冊相添可差出候事

明治何年舊慣稅皆納帳

一金何圓

此元價金何圓

內譯

金何圓

此元價金何圓

是者稼人何人何年何月皆納濟

金何圓

此元價金何圓

是者前同斷

金何圓

此元價金何圓

是者前同斷

金山稅

但元價百
分ノ何

銀又ハ銅稅

但舊慣元價ニ
寄テ記載ス

銀銅又ハ砂金稅

但舊慣元價ニ
寄テ記載ス

金何圓

此元價金何圓

是者前同斷

銀銅又ハ砂鐵稅

但前同斷

金何圓

此元價金何圓

是者前同斷

砂金稅

但前同斷

金何圓

此元價金何圓

是者前同斷

銅山稅

但前同斷

舊慣稅名從前續來、舊時、其其儘前書ノ振合、認ム

明治七八兩年分稅金內計共總ノ有ノ振合、認ム

右者明治何年舊慣稅皆納書面之通相違無之候也

年號月日

何府縣長官何某印

工部卿何某殿

明治何年坑物稅皆納帳

明治何年分

一金何圓

此譯

金何圓

何年前半個年分

此賣高元價金何圓

金何圓

何年後半個年分

此賣高元價金何圓

內譯

金何圓

金又ハ砂金稅

此賣高元價金何圓

但元價百
分ノ何

是者何年何月稼人何人上納

金何圓

銀稅

此賣高元價金何圓

但前同斷

是者前同斷

金何圓

銅稅

此賣高元價金何圓

但前同斷

是者前同斷

金何圓

鐵又ハ鉛錫稅

此賣高元價金何圓

但前同斷

是者前同斷

金何圓

綠禁又ハコホールト稅

此賣高元價金何圓

但前同斷

是ハ前同斷

此物種數亦前ニ有之限リ前ノ振合ニ認ムヘシ明治八年或ハ九年ニ越高分坑物稅上納仕譯共右ニ準スヘシ

右者明治何年坑物稅皆納書面之通相違無之候也

年號月日

何府長官何某印
何縣

工部卿何某殿

明治何年借區稅皆納帳

一金何圓

此坪數何坪

內譯

金何圓

有礦質物

此借區坪數何坪

但一ヶ年五百坪
ニ付金一圓

是者稼人何人一ヶ年分借區稅上納ノ分

金何圓

前同斷

此借區坪數何坪

但前同斷

是者稼人何人何年何月ヨリ何月迄何ヶ月ノ分借區稅上納ノ分

金何圓

鐵及無礦質物

此借區坪數何坪

但一ヶ年五百坪
ニ付金五拾錢

是者稼人何人一ヶ年分借區稅上納ノ分

金何圓

鐵及無礦質物

此借區坪數何坪

但前同斷

是者稼人何人何年何月ヨリ何月迄何ヶ月分借區稅上納ノ分

右者明治何年借區稅皆納書面之通相違無之候也

年號月日

何府長官何某印
何縣

工部卿何某殿

○第十四章 借區開坑許可ノ礦場讓渡又ハ廢業分區等ノ節

手續

〔工布第八號〕七年三月廿九日

借區開坑許可之礦場甲ヨリ乙へ讓渡之儀坑法第貳拾四條之通甲乙雙方ヨリ願書差出當省ニ於テ調査不都合無之聞届候分ハ更ニ證券可下

渡候條讓渡人所持之證券ハ願書一同可差出此旨布達候事

但讓受之年限ハ最初借區差許候年ヨリ殘年數ト相心得可申候事

〔工布第三十一號〕七年十二月七日

諸鑛山試堀並ニ借區開坑等證券一枚ヲ以數箇所致許可候鑛場ノ内借區開坑或ハ讓渡廢業分區等出願ノ節ハ本年當省第八號布達之通願人所持ノ證券願書一同可差出此旨布達候事

但試堀鑛場字一箇所ノ内幾坪借區開坑讓渡廢業等願出殘リ幾部分猶引續キ致試堀候分ハ其譯詳細ニ書加へ可願出其分ニ限リ證券差出ニ不及候事

○第十五章 試堀鑛場ヨリ坑物發見ノ節届出方

〔工布第三十號〕七年十二月五日

試掘鑛場ヨリ坑物發見スル時ハ坑法第二章第六款ニ照準直ニ見本可
差出等ノ處未タ不差出者モ有之ニ都合ニ付左之條目ニ照準シ早々爲
差出猶試掘ヲ不經シテ借區開坑候者モ同様爲差出候様可致此旨布達
候事

但以來モ本文同様可相心得候事

一有鑛質無鑛質ニ不係鑛石類ハ方三寸ヨリ大ナラサルモノ三硯砂金
ハ成丈大粒ヲ撰ミ目方壹匁ヨリ三匁迄砂鑛ノ類ハ字毎ニ目方拾匁石
油山盤等ハ字壹箇所ニ付貳合ヲ限毎種上中下三品差出ス可シ結品物
ハ大小ニ不關產出ノマ、差出スヘキ事

但結品物ノ價格アルモノ並ニ砂金ハ相當ノ代價下渡候事
一鑛物類ハ毎種必產出ノ地名並掘採人ノ名前書ヲ添ユヘシ

○第十六章 數人分區營業ノ節境界ノ處分方

〔王布第二十六號〕八年十月廿八日

諸坑業人一鑛山ヲ數人各自ニ分區營業候者双方坑區ノ中間ニ相當ノ
距離無之候テハ不都合ニ付自今試掘並借區開坑共雙方坑區ノ中間ニ
拾間以上ノ距離相立可願出且現今彼此接續ノ坑區ハ更ニ右ノ距離取
調圖面相添雙方ヨリ減區可願出此旨布達候事

但右開地ニ於テ採鑛セサルヲ得サル節ハ雙方借區人前談ノ上連名
ヲ以テ增借區開坑可願出事

○第十七章 鑛業稼ノ者身代限ノ節處分方

〔布告第四十九號〕九年四月十五日

諸坑業稼ノ者身代限リ處分ヲ受ケ候節ハ右處分相濟候迄稼業不相成

候條此旨布告候事

〔工布第八號〕九年四月二十日

太政官第四十九號身代限リ處分ヲ受候者處分中坑業稼方不相成旨御布告ニ付右處分ヲ受候者ハ當省ヨリ下渡置候試堀借區假證券返納可致此旨布達候事

但身代限リ處分濟之上猶再稼致度者ハ坑法ニ照準更ニ可願出候事

○第十八章 坑物引當ニ外國人ヨリ金子借入又ハ先キ賣ヲ

禁ス

〔布告第百二十四號〕七年十一月十日

坑物ノ儀ハ明治六年第二百五十九號布告日本坑法ニ掲載ノ通政府ノ所有物タルハ勿論ニ付假令開坑ノ許可ヲ受候共其坑中將來開發ノ品

ヲ引當ニ致シ外國人ヨリ金子借入又ハ先キ賣約定等ノ儀ハ不相成候條此旨布告候事

○第十九章 鑛山等ニ係ル會社設立出願方

〔太達第六十六號〕九年六月十九日

使 府 縣

鑛山鐵道燈臺電信等ニ係ル會社設立願出候節ハ自今工部省ニ可伺出此旨相達候事

○第二十章 北海道坑山ノ管理及借區稅

〔布告第五十五號〕八年四月十二日

北海道坑物採製ノ儀ハ開拓使所轄ニ候條明治六年七月第二百五十九號日本坑法中鑛山寮ヲ開拓使工部全權ヲ開拓使長官ト相心得同地方ニ

テ營業志望ノ者ハ都テ同使ヘ可願出此旨布告候事

〔布告第三號〕十一月二日

開拓使管内鑛山借區稅ノ儀詮議ノ次第有之當分其營業月數ニ應シ月割ヲ以テ徵収候條此旨布告候事

○第二十一章 坑法ニ屬シザルモノ、種類區別并取扱方

〔丙布甲第三號〕九月三日

日本坑法第一章三款ニ屬スル官有地土石類堀取規則別紙ノ通相定候條新規願出ノ分ハ勿論従前ヨリ堀取來候分共有規則ニ照準シテ當省ヘ可伺出此旨布達候事

土石堀取規則

此規則ハ日本坑法第一章第三款所屬ノ土石硯石、砥石、礮石、碑石、版石、石灰石、石磐、粘土ノ

類ニ限リ之レヲ施行スヘシ

第一條 官有地ノ土石ヲ開坑試堀セント欲スルトハ別紙書式ニ照シ

繪圖ヲ副ヘ地方廳ヲ經テ當省ヘ願出ヘシ

第二條 官有地ノ開坑ハ土石料トシテ一ケ年堀出シタル坑物代價即

チ山元賣拂直段ノ百分ノ一ヲ上納スヘシ

第三條 凡ソ石ハ一尺立方ヲ以テ一切トシ切以下ハ分厘ヲ以テ之ヲ

算シ土砂ハ六尺立方ヲ以テ一坪トシ坪以下ハ合勺ヲ以テ之ヲ算ス

ルモノトス

土石堀取願書式

何土石堀出願

字何

官有山林原野田畑之内

十年十月甲
第二十一號
ヲ以テ土石
料百分ノ一
ヨリ二十迄
トアルヲ百
分ノ一ト改
メ願書式共
更正

一 開坑場何坪

何土何坪何合何勺

此山元直段凡何圓何錢

此上納代料何圓何錢

何个年季

壹ヶ年堀出見込高

一坪ニ付何圓何錢

山元直段百分ノ一

明治何年何月ヨリ
全何年何月マテ

但試堀ハ堀出高并山元直段上納代料共記載ニ及ハス

右地所ニ於テ何々開坑仕度候間御聞届被下度奉願候

何府何國何郡何町何業
何縣何村何業

何某 印

明治何年何月何日

何府知事何某殿
何縣令何某殿

〔長野縣ヨリ内務省へ伺〕九年二月十八日

容歳十一月十五日附坑區取扱方伺面へ御指令ノ中猶ホ了解シ難キ條

件左ニ相伺候

磷酸石灰明礬膽礬ノ類ハ所謂生活ノ機ナキモノナレハ坑法第一章第三款外即チ全章第一款無機品第二類無鑛質物ニシテ坑業ノ部分ニ属スルモノナリ嚮ニ明治六年第二百五拾九號日本坑法御頒分ノ際ニ苟モ坑業ノ部分ニ係ルモノハ工部省所轄タルヘキ旨御公達有之御指令面ニ以上各目ノ掲載ナキヲ以テ考レハ御省ノ管轄ニ属スルモノニ似タリ果シテ然ラハ他ノ無機品第二類無鑛質物中ノモノト如何ナル權衡アツテ如此ノ區別ヲ爲シ候哉

指令 九年三月四日

書面磷酸石灰石炭明礬膽礬ハ工部省ノ所轄ト可相心得事

〔節磨縣ヨリ内務省へ伺〕九年四月十四日

本年御省甲第三號ヲ以官有地土石堀出規則御布達相成候處右年限ノ

儀ハ日本坑法ニ準據シ試堀ハ壹ケ年間開堀ハ拾五ケ年ト相心得可然哉又ハ願人ノ見込ニ任セ不苦哉若願人ノ意ニ任スモノトセハ第二條但書試堀中ハ土石料上納ニ及ハスト有之ニ付動モスレハ試堀年限ヲ故ラニ伸長スルソ弊ヲ生シ可申右ハ如何相心得可然哉

指令 九年六月廿二日

書面之趣試堀ハ堀出高ノ見据モ無之分ニ限リ六ケ月以内開坑ハ五ケ年以内ノ積取調可申出尤築石土砂等地表ニ現出シ又ハ極メテ地表ニ接近シ直ニ營業可相成モノハ試堀ヲ要セス直ニ開坑候儀ト相心得可申事

坑法彙纂終

明治十二年十二月二日御届
同年同月十一日出版



静岡縣平民

編輯者

名木欽一郎

芝區芝公園内山下谷
第四十號寄留

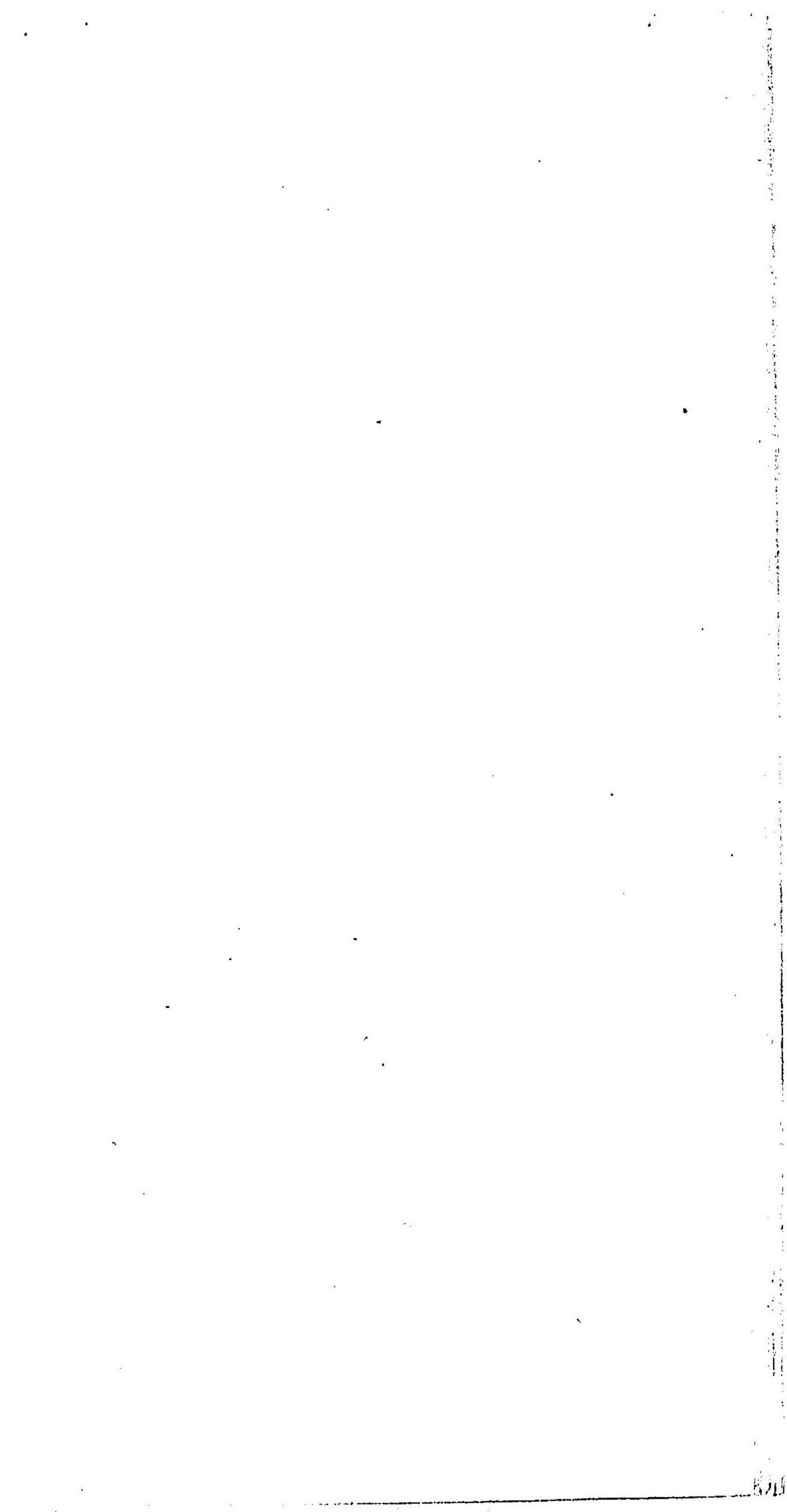
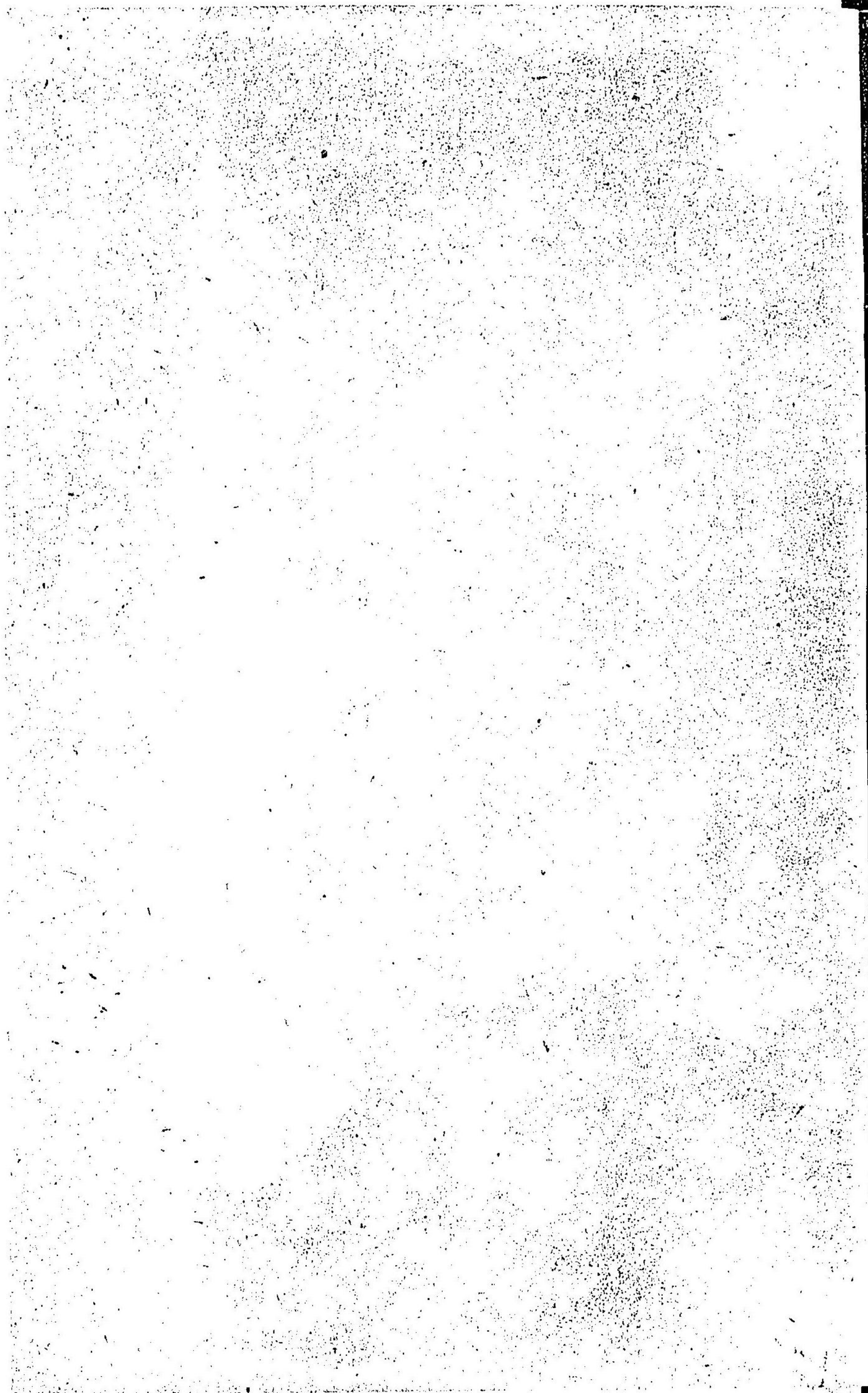
東京書肆

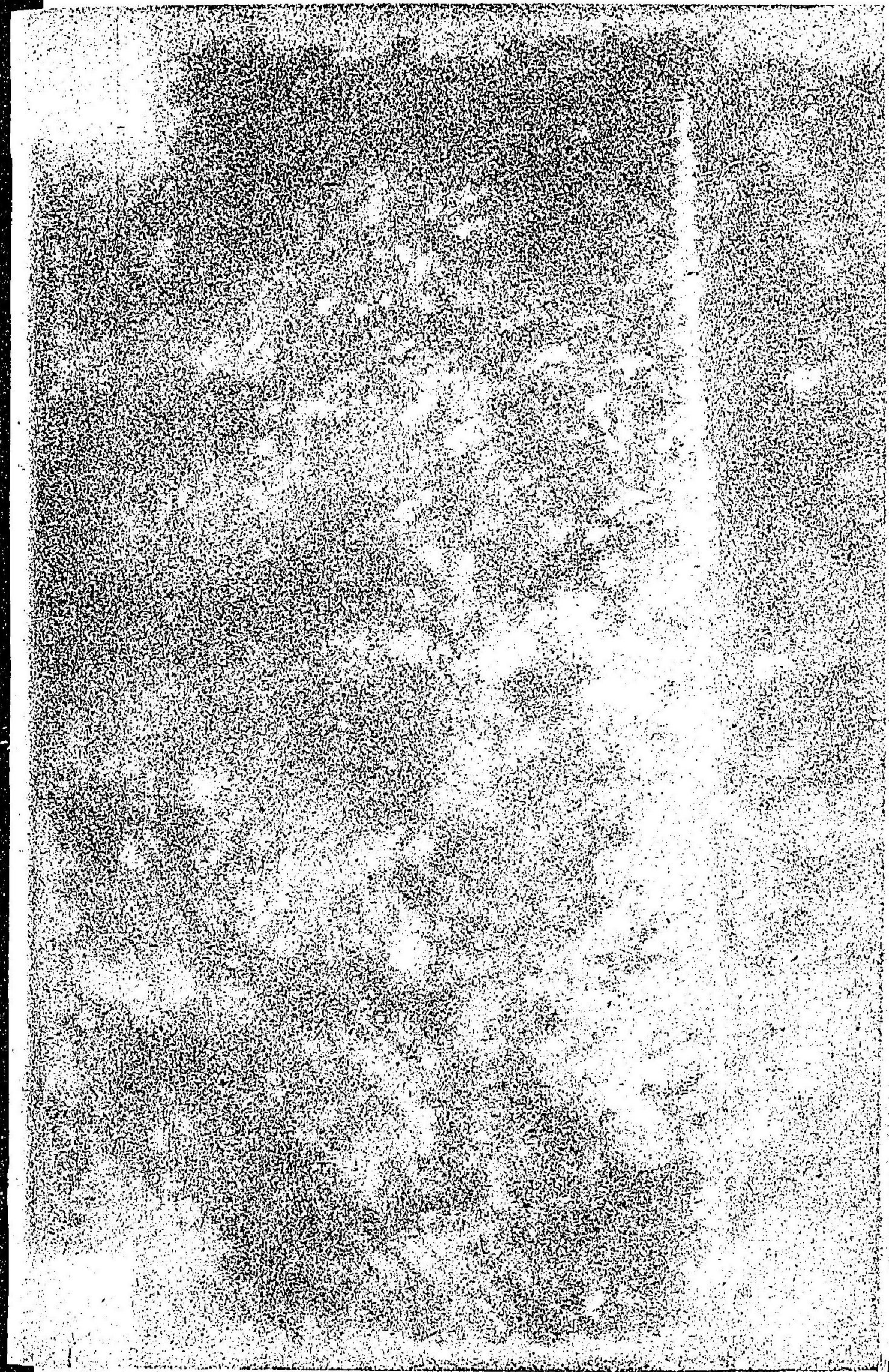
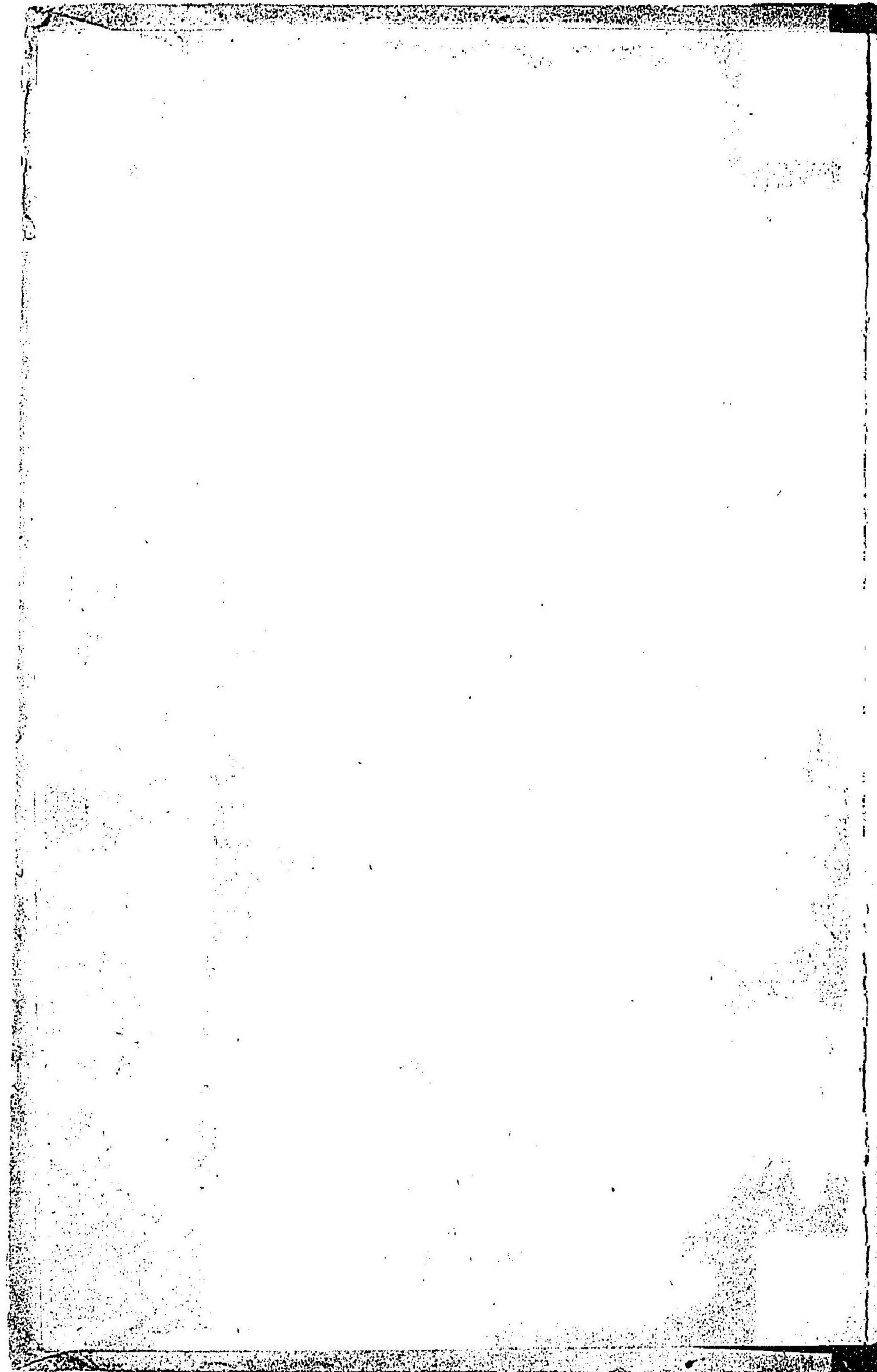
穴山篤太郎



發兌版人兼

京橋區南傳馬町二丁
目十三番地







有鄰堂發兌

CZ
433
033

禁電子式複写

名木欽一郎編纂

現行坑法彙纂

東京 有隣堂發兌

037496-000-3

CZ-433-033

現行坑法彙纂

名木 欽一郎/編

M12

BBU-0105

